

2022年1月  
One Asia Lawyers Group 代表  
シンガポール法・日本法・アメリカ NY州法弁護士

栗田 哲郎

## 1. NFT マーケットプレース運営者は、シンガポールでライセンスを取得する必要がありますか

### 決済サービスライセンス

2020年1月に施行された決済サービス法（Payment Services Act、以下「PSA」という）は、従来の決済と暗号通貨の決済との交換を規制しています。デジタル決済トークンサービスを提供する機関は、PSAに基づくライセンスの取得が義務付けられました。<sup>1</sup>



PSA では、デジタル決済トークンとは、交換媒体、または人々の間で商品やサービスの支払いに使用されることを目的とした、価値のあるデジタル表現と定義されています。ビットコインやイーサリアムのような暗号通貨は、PSA のデジタル決済トークンの定義に含まれます。これらの暗号通貨を取り扱う機関、または交換を促進する機関は、PSA に基づきライセンスを取得することが義務付けられています。

しかし、NFT は代替不可能であるため、一般に交換媒体とはみなされません。したがって、PSA の下でデジタル決済トークンとして分類される可能性は低いでしょう。その結果、NFT マーケットプレース運営者は PSA の規制を受けず、ライセンス取得も要求されない可能性があります。

### 認可された取引所および資本市場サービスライセンス

証券、デリバティブ契約、集団投資スキームのユニットを構成するデジタルトークンに関して、シンガポールで取引プラットフォームを設立または運営する者は、組織的な市場を運営している可能性があります。<sup>2</sup> 組織市場運営者は、シンガポール通貨庁（MAS）から公認取引所として承認されるか<sup>3</sup>、MAS から公認市場運営者として認められるか<sup>4</sup>、証券先物法（SFA）に基づき MAS から免除<sup>5</sup>を受けなければなりません。

NFT は、企業の実質的な所有権を表すなど、証券の特徴を示す場合には、証券に該当する可能性があります。その場合、そのような NFT の取引を行う市場は、SFA に基づき組織的に運営されているとみなされ、MAS から取引所としての承認、ライセンス、または免除を受ける必要がある可能性があります。

さらに、フラクショナル NFT は、(i)この種の NFT の市場参加者は NFT の原資産を管理していない、(ii)参加者の拠出はプールされている、(iii)参加者が利益を得ることを目的としていることから、SFA が定義する集団投資スキームのカテゴリーに該当する可能性があります。分数化された

<sup>1</sup> Payment Services Act Section 5 & 6.

<sup>2</sup> Part I of the First Schedule to the Securities and Futures Act.

<sup>3</sup> Securities and Futures Act Section 7 & 8.

<sup>4</sup> Ibid.

<sup>5</sup> Securities and Futures Act Section 14(1) & (2).

NFT を扱うマーケットプレイスは組織的市場とみなされるため、SFA に規定されたライセンス制度を遵守する必要があります。<sup>6</sup>

### **オムニバス法(Proposed Omnibus Act)**

2020年7月、MAS は新オムニバス法を提案し、マネーロンダリング防止基準の強化と、仮想資産サービスプロバイダー (VASP) に対する規制や命令を課す MAS の権限の拡大を導入することを決定しました。このような導入は、マネーロンダリングとテロ資金調達の世界的な監視機関である金融活動作業部会 (FATF) が調整する金融犯罪を軽減するための継続的な取り組みと一致するものです。

提案された法律によると、MAS は、「デジタル・トークン・サービス・プロバイダー(Digital Token Service Providers)」(「DT サービス・プロバイダー」) という新しいクラスの金融機関を設立する意向です。デジタルトークンサービスには、金銭や他のデジタルトークンと引き換えにデジタルトークンを売買するための、またはそのような契約を締結するよう人を誘導することが含まれます。NFT マーケットプレイス運営者は、この定義に基づく DT サービスプロバイダーとして認定される可能性があります。<sup>7</sup> マーケットプレイス事業者がシンガポールで設立された場合、同法案の制定に伴い、同法に基づく規制およびライセンス体制を履行することが求められる可能性があります。

## **2. シンガポールにおける NFT ビジネスに対するアンチマネーロンダリング要件は何ですか。**

### **一般的に**

汚職、麻薬取引及びその他の重大犯罪 (利益の没収) 法によると、マネーロンダリングの疑いのある取引について、シンガポール警察が設置した疑わしい取引報告所の実務上速やかに報告する義務を負うとされています。<sup>8</sup>

テロ資金対策については、テロリズム (資金調達の抑制) 法に基づき、テロリストに属する財産の所持・保管や、それに関連する取引に関する情報は、直ちに警察に開示しなければならないとされています。<sup>9</sup>

### **決済サービス法(Payment Services Act)**

PSA には、デジタル決済トークンサービス提供者の金融犯罪を防止するための AML/CFT 条項が含まれています。MAS は、決済サービスライセンス保有者に対し、マネーロンダリングやテロ資金供与を検知・防止するための強固な管理体制を構築するよう求める通知を別途発表しています。<sup>10</sup> しかし、上述の通り、NFT マーケットプレイスは PSA の下でデジタル決済トークン・サービス・プロバイダーに分類される可能性が低いいため、PSA の下で発行された AML ガイドラインはシンガポールの NFT マーケットプレイス運営者に影響を与えない可能性があります。

### **オムニバス法(Proposed Omnibus Act)**

提案されている包括法では、MAS はすべての DT サービスプロバイダーの AML 要件を、PAS の下で支払サービス免許の保有者に課される要件と一致させる意向です。本法案が施行された場合、NFT マーケットプレイス運営者は、他の認可された暗号通貨サービスプロバイダーと同様に、AML/CFT 対策の実施を求められる可能性があります。このような AML 対策には、一般的に適切な顧客デューデリジェンスの実施、定期的なアカウントレビューの実施、疑わしい取引の報告などが含まれます。

<sup>6</sup> Securities and Futures Act Section 2(1).

<sup>7</sup> Particularly, Consultation Paper on the New Omnibus Act for the Financial Sector para. 3.12 (c).

<sup>8</sup> Corruption, Drug Trafficking and Other Serious Crimes (Confiscation of Benefits) Act section 45.

<sup>9</sup> Terrorism (Suppression of Financing) Act section 8.

<sup>10</sup> Notice PSN02 Prevention of Money Laundering and Countering the Financing of Terrorism – Digital Payment Token Service.

### 3. 今後、シンガポールでのビジネス確立を目指す NFT マーケットプレイス事業者にとっての課題は何でしょうか。

シンガポールは暗号通貨関連ビジネスに対してオープンな姿勢を示しています。例えば、2018年、MAS は暗号通貨企業がシンガポールに設立するために、現地の銀行口座の開設を支援することに同意しました<sup>11</sup>。また、政府はブロックチェーン技術がもたらす可能性のある経済的・社会的利益を認識しています。実際、MAS はこれらの革新的な技術の実験に熱心で、近年いくつかのプロジェクトを立ち上げています<sup>12</sup>。

しかし、シンガポール政府は、長年にわたって技術への理解を深めるにつれて、暗号通貨関連産業に関連するリスクをさらに認識し、それに対する規制を強化してきています。規制当局が発表した最新の数字によると、PAS の下で決済サービスライセンスを申請した約 170 の暗号サービス事業者のうち、100 以上の事業者が申請を断られたり、取り下げられたりしているとのことです。これらの申請者が不合格になった理由は、主にマネーロンダリングやテロ資金供与を抑止するために金融規制当局が定めた高いコンプライアンス基準を満たす能力やインフラが不足しているためです<sup>13</sup>。これは、MAS が暗号セクターのリスクを監視する上で慎重なアプローチを採用していることを示しています。MAS は、非常に高い基準で運用できるプロバイダーを選択することになるでしょう。

シンガポールにオフィスを構えたい NFT マーケットプレイスサービスプロバイダーは、現地銀行へのアクセスを得るために、MAS が発行する AML 要件の基礎となるものを受けるとをお勧めします。さらに、規制当局が急速に追いつけているため、暗号セクターのすべてのプレーヤーに対する規制は最終的に FATF が定める世界標準に一致することが予想されます。シンガポールで設立された NFT マーケットプレイスは、海外でビジネスを行う際にシンガポールの基準を遵守する必要があるかもしれません。<sup>14</sup>

#### ◆ One Asia Lawyers ◆

「One Asia Lawyers」は、日本および ASEAN 各国の法律に関するアドバイスを、シームレスに、一つのワン・ファームとして、ワン・ストップで提供するために設立された日本で最初の ASEAN 法務特化型の法律事務所です。当事務所メンバーは、日本および ASEAN 各国の法律実務に精通した専門家で構成されています。日本および ASEAN 各国にオフィス・メンバーファームを構えることにより、日本を含めた各オフィスから ASEAN 各国の法律を一括して提供できる体制を整えることに注力しております。

本記事に関するご照会は以下までお願い致します。

[info@oneasia.legal](mailto:info@oneasia.legal)

<著者>

<sup>11</sup> The Star, Singapore will help crypto firms set up local bank accounts, October 10, 2018, <https://www.thestar.com.my/business/business-news/2018/10/10/singapore-will-help-crypto-firms-set-up-local-bank-accounts>.

<sup>12</sup> Such as Project Ubin launched in 2016 and Project Orchid launched in 2021.

<sup>13</sup> Nikkei, Crypto entrepreneurs find Singapore is not so hospitable after all, December 20, 2021, <https://asia.nikkei.com/Spotlight/Market-Spotlight/Crypto-entrepreneurs-find-Singapore-is-not-so-hospitable-after-all>

<sup>14</sup> Consultation Paper on the New Omnibus Act for the Financial Sector para. 3.4.



栗田 哲郎

**One Asia Lawyers Group 代表**

**シンガポール・日本・USA/NY州法弁護士**

日本の大手法律事務所に勤務後、シンガポールの大手法律事務所にパートナー弁護士として勤務。その後、国際法律事務所アジアフォーカスチームのヘッドを務め、2016年7月 One Asia Lawyers Group を創立。シンガポールを中心にクロスボーダーのアジア法務全般（M&A、国際商事仲裁等の紛争解決等）のアドバイスを提供している。2014年、日本法弁護士として初めてシンガポール司法試験に合格し、シンガポール法のアドバイスも提供している。

[tetsuo.kurita@oneasia.legal](mailto:tetsuo.kurita@oneasia.legal)

+65 8183 5114

## **Regulation in Singapore over NFT (Non Fungible Token) Revised February 2022**

January 2022  
One Asia Lawyers Group  
Attorney at Law in Singapore, Japan and NY  
Tetsuo Kurita

### **1. Does a NFT marketplace operator require to obtain a license in Singapore?**

#### ***Payment Service licence***

The Payment Services Act (PSA) which came into effect in January 2020 regulates traditional as well as cryptocurrencies payments and exchanges. Any institutions providing digital payment token services are now required to obtain a licence under the PSA.<sup>15</sup>

Digital payment token is defined under PSA as any digital representation of value that is intended to serve as medium of exchange or as a payment for goods or services among people. Cryptocurrencies like Bitcoin and Ethereum fall within the definition of digital payment token under the PSA. Any institutions dealing in or facilitating as exchanges for those cryptocurrencies are required to obtain a licence under the PSA.



However, because of the non-fungible feature, NFT is generally not considered as a medium of exchange. Therefore, it is unlikely to be classified as digital payment token under the PSA. As a result, a NFT marketplace operator may not be regulated nor be a required to obtain licence under the PSA.

#### ***Approved exchange and capital market services licence***

A person who establishes or operates a trading platform in Singapore in relation to digital tokens which constitutes securities, derivatives contracts or units in Collective Investment Scheme may be operating an organised market.<sup>16</sup> An organised market operator must either be approved by Monetary Authority of Singapore (MAS) as an approved exchange<sup>17</sup>, recognised by MAS as a recognised market operator<sup>18</sup> or obtain exemption from MAS<sup>19</sup> under the Securities and Futures Act (SFA).

A NFT may constitute a security when it exhibits the characteristics of securities, such as representing a beneficial ownership interest in a corporation. If so, the marketplace dealing in transactions of that kind of NFT may deem to be operating an organised under the SFA and therefore require to obtain an approval as an exchange, a licence, or an exemption from MAS.

In addition, fractionalised NFT may fall under the category of Collective Investment Scheme as defined in the SFA, because (i) the market participants of these kind of NFTs do not have control over the underlying property of the NFT; (ii) contributions of the participants are pooled; and (iii) the purpose of such arrangement is to enable participants to earn a profit. Marketplaces which deal in fractionalised NFT may then be considered an organised market and thus need to observe the licensing regime as set out under the SFA.<sup>20</sup>

#### ***Proposed Omnibus Act***

In July 2020, MAS proposed the New Omnibus Act to introduce enhanced anti-money laundering standards as well as an expanded power in MAS to impose regulations and orders over virtual asset service providers (VASPs). Such an introduction is in line with the continuous efforts to mitigate financial crimes as coordinated by the Financial Action Task Force (FATF), the global money laundering and terrorist financing watchdog.

<sup>15</sup> Payment Services Act Section 5 & 6.

<sup>16</sup> Part I of the First Schedule to the Securities and Futures Act.

<sup>17</sup> Securities and Futures Act Section 7 & 8.

<sup>18</sup> Ibid.

<sup>19</sup> Securities and Futures Act Section 14(1) & (2).

<sup>20</sup> Securities and Futures Act Section 2(1).

According to the proposed Act, MAS intends to create a new class of financial institution, namely, “Digital Token Service Providers” (“DT Service Providers”). Digital token service includes inducing any person to enter into any agreement for or with a view to buying or selling any DTs in exchange for any money or any other DTs. A NFT marketplace operator is likely to be qualified as a DT Service Provider under such definition.<sup>21</sup> If the marketplace operator is established in Singapore, it may then be required to fulfil the regulatory and licensing regime under the proposed Act upon its enactment.

## **2. What are the anti-money laundering requirements for NFT businesses in Singapore?**

### ***In general***

According to the Corruption, Drug Trafficking and Other Serious Crimes (Confiscation of Benefits) Act, a person has an obligation to report suspected money laundering transactions as soon as practicable with the Suspicious Transaction Reporting Office, which is established by the Singapore Police Force.<sup>22</sup>

As for counter-terrorist financing, a person shall disclose immediately to the police any possession or custody of any property belonging to any terrorist, or any information about transactions related to that, under the Terrorism (Suppression of Financing) Act.<sup>23</sup>

### ***Payment Services Act***

The PSA contains AML/CFT provisions to prevent the commission of financial crimes among digital payment token service providers. A separate notice has released by MAS which required the holders of the payment service licence to set up robust controls to detect and prevent money laundering and terrorism financing.<sup>24</sup> However, as noted above, as NFT marketplace is unlikely to be classified as digital payment token service providers under the PSA, the AML guidelines issued under PSA may not have an effect on NFT marketplace operators in Singapore.

### ***Proposed Omnibus Act***

Under the proposed Omnibus Act, MAS intends to align the AML requirements of all DT Service Providers with the requirements imposed on the holders of the Payment Service Licence under PAS. If the proposed Act is put in place, NFT marketplace operator is likely to be required to implement AML/CFT measures, just as other licensed cryptocurrencies service providers. Such AML measures generally include carrying out proper customer due diligence, conduct regular account reviews, and report suspicious transactions.

## **3. Looking forward, what are the challenges for an NFT marketplace operator looking to establish its business in Singapore?**

Singapore have demonstrated an open attitude towards cryptocurrencies-related business. For instance, in 2018, MAS agreed to help cryptocurrency firm to set up local bank accounts in order for them to set up an establishment in Singapore.<sup>25</sup> The government also recognises the potential economic and social benefits that the blockchain technology may bring about. Indeed, MAS is keen on experimenting these innovative technologies and have launched several projects in recent years<sup>26</sup>.

However, as the Singapore government deepens its understanding in the technology over years, they further appreciate the risks associated with the cryptocurrencies-related industries and have been strengthening the regulatory forces over it. According to the latest figures from regulators, there were more than 100 of the around 170 crypto service provider business that applied for payment service licences under PAS have been turned down or withdrawn their applications. The reason for those applicants to fail was mainly due to the lack capacity or infrastructure to meet the high compliance standards set out by the financial regulator to deter

---

<sup>21</sup> Particularly, Consultation Paper on the New Omnibus Act for the Financial Sector para. 3.12 (c).

<sup>22</sup> Corruption, Drug Trafficking and Other Serious Crimes (Confiscation of Benefits) Act section 45.

<sup>23</sup> Terrorism (Suppression of Financing) Act section 8.

<sup>24</sup> Notice PSN02 Prevention of Money Laundering and Countering the Financing of Terrorism – Digital Payment Token Service.

<sup>25</sup> The Star, Singapore will help crypto firms set up local bank accounts, October 10, 2018,

<https://www.thestar.com.my/business/business-news/2018/10/10/singapore-will-help-crypto-firms-set-up-local-bank-accounts>.

<sup>26</sup> Such as Project Ubin launched in 2016 and Project Orchid launched in 2021.

money laundering and financing of terrorism.<sup>27</sup> This indicates that MAS has adopted a prudent approach in monitoring the risk of the crypto sector. MAS would select providers that can operating at very high standards.

NFT marketplace service providers who wish to establish an office in Singapore may want to subject themselves to the underlying AML requirements issued by MAS in order to obtain local bank access. Moreover, as the regulator is catching up quickly, it is anticipated that the regulations for all players in the crypto sector will eventually align with the global standards as set out by the FATF. Singapore-established NFT marketplace may need to observe Singapore standards when they conduct their business overseas.<sup>28</sup>

◆ One Asia Lawyers ◆

One Asia Lawyers is a network of independent law firms created expressly to provide seamless, comprehensive legal advice for Japanese clients. We are legal specialists in the myriad and very complex laws in each of all ASEAN countries. With our member firms in each ASEAN country as well as Japan, we provide an accessible and efficient service throughout the region.

For any enquiry regarding this article, please contact us by sending an email to:

[info@oneasia.legal](mailto:info@oneasia.legal)

<Authors>



**Tetsuo Kurita**  
**Representative Lawyer, One Asia Lawyers Group**  
**Lawyer (Singapore, Japan and NY, USA)**

After working at a leading law firm in Japan, Tetsuo joined one of Singapore's top law firms as a partner. He then became the head of Asian operations of an international law firm. Since the establishment of One Asia Lawyers Group in July 2016, he has provided legal advice on various cross-border legal transactions, including M&A and international trade disputes. In 2014, he became the first qualified Japanese lawyer to advise Singapore commercial law (Foreign Practitioner certificate for Foreign Lawyer to Practise both Singapore Law and Foreign Law in Singapore (Section 36B))

[tetsuo.kurita@oneasia.legal](mailto:tetsuo.kurita@oneasia.legal)

+65 8183 5114

<sup>27</sup> Nikkei, Crypto entrepreneurs find Singapore is not so hospitable after all, December 20, 2021, <https://asia.nikkei.com/Spotlight/Market-Spotlight/Crypto-entrepreneurs-find-Singapore-is-not-so-hospitable-after-all>.

<sup>28</sup> Consultation Paper on the New Omnibus Act for the Financial Sector para. 3.4.